

資料①令和2年度地方創生関係交付金対象事業検証シート

※地方創生関係交付金の活用に係る事務事業の実績について記載しています。

(各事業の成果実績、活動実績は担当課が実施した事務事業評価による数値を抜粋)

NO.1

R2地方創生推進交付金 小さな拠点を核とした市民協働による地域活性まちづくりプロジェクト

事業名	みんなのまちづくり推進事業				
担当課	地域振興部 まちづくり推進課				
交付金対象事業費	1,937千円				
1 事業の背景・目的					
市民がまちづくりの主体であるという自治基本条例の基本理念のもと、市民のまちづくりへの参画機会の創出や人材育成など、まちづくりの基盤づくりを行う					
2 事業の内容					
まちづくりへの市民参画の状況把握や条例の適切な運用について検証・検討する自治基本条例推進委員会の開催					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	報酬	63,000	自治基本条例推進委員会委員報酬		
	旅費	7,620	自治基本条例推進委員会委員旅費		
	決算額計	70,620	交付金充当額	35,310	
4 事業の成果					
1回の会議を開催し(2回目は緊急事態宣言により中止)、委員それぞれの経験や知識を踏まえ、まちづくりのあり方について検討することができた。					
5 課題					
コロナ禍における市民活動のあり方については課題であり、今後この会議でも議論していく。					
6 R3年度以降の 予定					
今後も継続して議論を行っていく。					
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	地域協議会数	団体	3/7	3/7	4/7
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	自治基本条例推進委員会	回	2/1	2/2	1/2
担当課による評価					
C(効果があった)					
評価をつけた理由					
「市民協働」を進めるにあたって、有識者や地域で活動する人の声を聞き、今後の施策展開に生かすことができる有意義な機会であったが、今年度は1回開催したのみであったため。					

NO.2

R2地方創生推進交付金 小さな拠点を核とした市民協働による地域活性化まちづくりプロジェクト

事業名	有償運送運行事業
担当課	建設交通部 都市・交通課
予算額	3,440千円

1 事業の背景・目的

「福知山市地域公共交通網形成計画」に基づき、地域の実情やニーズに適した効率的・効果的な交通体系の再編を進めている。その一環として、三和地域をモデル事業として、バス路線の再編に伴う補完、また鉄道やバス路線から離れた公共交通空白地における移動手段の確保のため「公共交通空白地有償運送事業」の導入推進のため、その支援内容や適正な運行のあり方について検証を行うことを目的に実施する。

2 事業の内容

三和地域における利用率が低い市バスの削減や路線の短縮等運行内容見直しに合わせ、三和地域協議会が実施する公共交通空白地有償運送事業「みわひまわりライド」を地域コミュニティ交通導入のモデル事業として位置づけ、運送に要する経費を支援する。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	負担金補助金及び交付金	2,077,000	交通空白地域移送サービス事業費補助金	
	決算額計	2,077,000	交付金充当額	1,019,500

4 事業の成果
三和地域の市バスの段階的再編により、市バスから個別移送への転換が進み、会員数は増加しているが、コロナ禍における外出自粛の影響により利用延人数は663人（前年度比▲336人）であった。

5 課題
運行事業者の運営が厳しいことやドライバー確保の課題等も考慮した上で、必要となるガイドラインの策定・見直しや実施団体への運行支援のあり方について検討を行う必要がある。

6 R3年度以降の
予定
引き続き、事業検証を実施しながら、公共交通空白地における市民の移動・交通手段の確保や支援内容の在り方について検討を行っていく。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	会員数	人	90/150	126/150	139/150
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	有償運送利用者数 (延人数)	人	700/2500	969/2500	633/2500

担当課による評価 C(効果があった)

評価をつけた理由
コロナ禍の外出自粛の影響もあり利用者数は前年度に比べ減少しているが、会員数の増加傾向から市バスから個別移送への転換は進んでいると判断し、一定の効果があったものと評価する。

NO.3

R2地方創生推進交付金 小さな拠点を核とした市民協働による地域活性化まちづくりプロジェクト

事業名	都市計画費一般管理事業				
担当課	建設交通部 都市・交通課				
予算額	3,225千円				
1 事業の背景・目的					
<p>都市計画審議会等の開催、都市計画関連手続き等の適正な運用を図り、都市計画事業や適切な土地利用等を推進する。</p> <p>また、積極的に研修に参加し、職員の専門性、能力向上を図り、業務の効率化、高度化を推進する。 (地区計画策定事業)</p> <p>人口減少が著しくコミュニティの維持が課題となっている市街化調整区域の集落に地区計画を策定し、集落環境の維持、保全のための土地利用を誘導することで地域の中核となる小さな拠点の形成を図り、地域活性化を促進する。</p>					
2 事業の内容					
(地区計画策定事業) 住民が主体となった話し合いの中で共有された地区の将来像の実現に向けて、地区計画を策定する。					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	需用費	31,350	印刷製本費 (パンフレット作成)		
	決算額計	31,350	交付金充当額	15,675	
4 事業の成果	複数の地区で地区計画の検討を進める中、1地区について都市計画決定することができた。				
5 課題	地区計画素案の作成及び合意形成は、住民主体を基本に市も参画して実施しているが、素案作成主体への市の関わり方や住民合意の方法などについて工夫が必要。				
6 R3年度以降の 予定	検討中の地区について引き続き地域の勉強会に参加するなど、取組を推進し必要に応じて地区計画の策定をめざす。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	地区計画策定 (累計) 地区	式	2/3	2/5	3/5
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	地域勉強会	回	6/4	7/4	8/4
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	地域が主体となって作成された素案をもとに1地区の地区計画を都市計画に定めることができたため。				

NO.4

R2地方創生推進交付金 京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業					
事業名	海の京都DMO事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	11,419千円				
1 事業の背景・目的					
京都府北部5市2町を「海の京都」と位置づけ、全国有数の競争力ある観光圏となることを目的に、一般社団法人京都北部連携都市圏振興社を組織し国内、インバウンド対策を実施。					
2 事業の内容					
一般社団法人 京都北部地域連携都市圏振興社（海の京都DMO）に対する自治体負担金。					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金補助金及び交付金	10,990,000	海の京都DMO事業分担金		
	決算額計	10,990,000	交付金充当額	3,930,000	
4 事業の成果	京都府北部全体で観光による地域づくり、地域活性化のための施策を展開 [R2主要事業] ①新型コロナウイルス対策事業、②インバウンド推進事業、③情報発信事業、④旅行商品・特産品販売促進事業、⑤観光地域づくり・人材育成事業、⑥周遊強化・地域連携事業、⑦マーケティング調査・分析事業				
5 課題	京都府北部エリア全域と市独自の観光特性に応じた取組が、双方で十分に連動しながら実施できているとは言えない。DMO総合企画局、DMO福知山地域本部（福知山観光協会）、市の業務分担等を明確にししながら、各組織間で連携、共有していく必要がある。				
6 R3年度以降の 予定	引き続き海の京都DMOと連携し広域観光やプロモーションで誘客を図っていくとともに、新型コロナウイルスの感染状況に応じた取組を展開していく。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	観光入込客数	人	927,086 /942000	1116577/942000	892414/942000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	特産品販売額	万円	691/2,000	631/2000	214/2000
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	新型コロナウイルスの感染状況に応じたマイクロツーリズム促進事業やバーチャル体験等、柔軟に取組を展開され、地域での消費促進やPRにつながっている。				

NO.5

R2地方創生推進交付金 京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業

事業名	ふるさと就職おうえん事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	2,923千円				
1 事業の背景・目的					
<p>高校生をはじめとする若者の地元企業への理解と関心を高め、地元への定着と地元企業の人材確保につなげるとともに、福知山地域の事業所と求職者との出会いの場を創出することで雇用の安定を図り、持続可能な地域雇用を実現をめざす。</p>					
2 事業の内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 合同就職説明会開催による市内企業と一般求職者・UIJターン希望者等とのマッチング機会創出 ・ 高校生ワークショップの開催による若者が地元企業を知る機会の提供 ・ 北京都ジョブパークとの共催による各種セミナーやカウンセリングの実施、スキルアップ支援 ・ その他、新入社員合同研修、企業ガイド発行、公正採用啓発、人権ふれあいセンターでのパソコン講座、就職支援セミナー、個別就職相談会等の開催 					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金補助金及び交付金	229,000	ふるさと就職おうえん事業負担金		
	決算額計	229,000	交付金充当額	114,500	
4 事業の成果	<p>合同企業説明会等には延べ235社、369名の参加があり、うち21名の就職内定につながった。高校生ワークショップには276名の高校生が参加し、市内の若者へ魅力ある地元企業を知るきっかけを提供した。</p>				
5 課題	<p>令和2年度より新たに実施したオンライン上での合同企業説明会においては、面談内容やフォローアップに関して運営上の課題がみられるため、改善の余地がある。また、参加者数増加をめざし、他部署との連携や広報拡充を図る必要がある。</p>				
6 R3年度以降の 予定	<p>合同企業説明会について、新型コロナウイルス感染症の拡大状況や地元企業・参加者のニーズに応じてオンライン上での開催と会場における対面形式での開催を両立させながら、引き続きの両者のマッチング機会を創出していく。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	就職内定者数	人	85/40	36/40	21/40
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	就職面接会参加企業数	社	443/160	429/160	235/160
担当課による評価	A(非常に効果があった)				
評価をつけた理由	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により大規模なイベント開催が制限される中でも、オンラインツールの活用により地元企業と求職者のマッチング機会を創出することができ、内定にもつなげることができたため非常に効果があったと評価する。</p>				

NO.6

R2地方創生推進交付金 京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業					
事業名	移住・定住促進事業				
担当課	地域振興部 まちづくり推進課				
予算額	34,897千円				
1 事業の背景・目的					
京都府北部7市町で構成する「京都府北部地域連携都市圏」を、移住や定住にふさわしい圏域として「地域ブランド」を確立することにより、必要とする人材の確保及び地域の振興につなげることを目的とする。					
2 事業の内容					
<p>(1) 京都府北部地域移住ネットワークづくり（民間プレーヤーと行政が協力して移住につながるプロジェクトを企画・運営）</p> <p>(2) 地域Webサイト「たんたんターン」改修等</p> <p>(3) 高校生“みらい”会議（ふるさとへの関心や愛着を醸成し、将来的なUターンにつなげるためのワークショップ）</p> <p>(4) 市町担当者連携会議（事業の進捗確認や今後の方向性について検討する会議）</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金補助金及び交付金	1,145,000	移住・定住促進事業負担金		
	決算額計	1,145,000	交付金充当額	572,500	
4 事業の成果	<p>(1) 民間主導で4つのプロジェクト（①起業・事業継承、②観光ワーケーション、③まちの人事部、④コミュニティづくり）を実施。</p> <p>(2) 移住者インタビューの掲載などにより移住者目線のサイトにリニューアルした。</p> <p>(3) 圏域内の公立市立合わせて8校20名の高校生が参加して市町を超えて交流を行った。</p> <p>(4) 事業の進捗確認や第2期のビジョンの作成や次年度に向けての協議を行った。</p>				
5 課題	<p>コロナ禍を受けて全国的に地方移住への関心が高まる中、スケールメリットを活かして、ひとつの圏域として効果的な施策を打ち出していく必要がある。</p> <p>また、行政だけでなく民間の力も借りて移住につながる仕組みや受入体制を一層整備していく必要がある。</p>				
6 R3年度以降の 予定	<p>本圏域への移住につながるようなプロジェクトを民間が主体となって行政と協働で進めていくと同時に、ひとつの圏域としてのプロモーションや情報発信を引き続き行う。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	制度利用による定住者数	人	34/20	24/20	37/20
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	新規移住希望者名簿登録数	件	81/100	90/100	274/100
担当課による評価	B(相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	<p>「京都」というブランドの中でも自然豊かな北部を選択する都市部からの移住希望者は多く、本市でも移住者（空き家情報バンク制度を通じての利用者数）は増加しており（H28:22名、H29:7名、H30:34名、R1:31名、R2:37名）相当程度効果があったと評価する。</p>				

R2地方創生推進交付金 京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業

事業名	広域連携推進事業				
担当課	市長公室 経営戦略課				
予算額	2,399千円				
1 事業の背景・目的					
近隣市町や京都府、その他府県等との連携により、広域課題等に対し効率的、効果的な施策を展開し、中核市並みのサービスを連携都市圏内に展開する。					
2 事業の内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・京都府北部地域連携都市圏（構成市町：福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、与謝野町、伊根町）において、総会、幹事会、各部会（産業、観光、教育、移住・定住、交通）等を開催し、第2期連携ビジョン、アクションプランの策定を行う。 ・第1期連携ビジョンに基づき、幹事である教育部会において地方創生推進交付金を活用しながら各種事業を推進する。 					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金補助金及び交付金	2,192,000	広域連携推進事業負担金		
	決算額計	2,192,000	交付金充当額	271,000	
4 事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・圏域で共通する地域課題等の解決を図るため、地域住民と連携した取組の推進に向けて生涯学習講座を開催した。 （第1回）住民発 魅力発信の未来（宮津市開催） （第2回）IJUターンで拓く地域創生の未来（オンライン開催） ・行政サービスシームレス化の推進に向けて、構成市町間での図書館の相互利用を実施した。 				
5 課 題	<p>連携推進に向けて事業を展開しているが、圏域内の住民の生活機能や利便性の向上が実感できるような連携の取組を行い、住民にも十分理解を得るなかで連携事業を展開していく必要がある。</p> <p>第2期ビジョンに掲げる産官学連携コンソーシアムの構築に向けて、地域課題の抽出等を進める必要がある。</p>				
6 R3年度以降の 予定	第2期ビジョンの実現に向けて、引き続き各部会で取り組むアクションプランの推進を図る。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	広域連携による事業数	事業	6/6	8/8	8/10
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	広域連携に関する各市 理事者による協議	回	4/5	5/5	6/5
担当課による評価	B(相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	<p>生涯学習講座については、新型コロナウイルス感染症拡大により例年とおりの開催が困難となった中で、オンラインでの開催に切り替えて地域住民の学びの機会を提供できた。</p> <p>図書館の相互利用では、福知山市立図書館において2,981人の北部圏域内住民の利用登録者があり、継続して登録者が拡大（昨年度2,892人）してしており、行政サービスシームレス化に相当程度効果があったと評価する。</p>				

R2地方創生推進交付金 京都府北部地域連携都市圏ステップアップ事業

事業名	「知の拠点」推進事業				
担当課	市長公室 大学政策課				
予算額	391,755千円				
1 事業の背景・目的					
<p>福知山公立大学が北近畿地域における様々な課題解決に向けたシンクタンク機能を発揮するとともに、市民の「知の拠点」の役割を果たすため、地域連携・地域協働を推進するための取り組みを支援する。</p>					
2 事業の内容					
<p>京都府北部地域連携都市圏等の地域連携事業を支援し、地域協働・地域連携活動を推進した。</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金補助金及び交付金	5,000,000	「知の拠点」推進事業交付金		
	決算額計	5,000,000	交付金充当額	2,500,000	
4 事業の成果	北近畿地域を舞台とする北近畿創生フューチャーセッションなど様々な地域連携事業を通じて北近畿地域の行政機関、教育機関、企業、各種団体等とのネットワークを形成した。				
5 課題	京都府北部地域を対象とした地域連携事業の積極的な展開が必要である。				
6 R3年度以降の 予定	北近畿地域連携機構の機能強化により地域から信頼される地域・社会貢献活動を推進する。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	福知山公立大学の社会人向け講座受講者数	人	1598/300	1253/400	607/500
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	地域と大学の連携取組数(包括協定締結数)	人	15/10	15/10	15/10
担当課による評価	A(非常に効果があった)				
評価をつけた理由	<p>市民レベルで北近畿地域内の課題解決を模索する「北近畿創生フューチャーセッション」を2回開催し、合計82名の参加があった。</p> <p>また大学が有する知見を広く市民に提供し、持続可能な地域社会を形成することを目的とした「福知山公立大学分野別公開講座」を3回企画。いずれも対面とオンライン配信を組み合わせる形式で実施し、合計95名の参加があった。</p>				

R2地方創生推進交付金 福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業					
事業名	「知の拠点」推進事業（2）				
担当課	市長公室 大学政策課				
予算額	391,755千円				
1 事業の背景・目的					
<p>福知山公立大学が北近畿地域における様々な課題解決に向けたシンクタンク機能を発揮するとともに、市民の「知の拠点」の役割を果たすため、地域連携・地域協働を推進するための取り組みを支援する。</p> <p>また、今後の施設整備に係る方針及び将来計画の策定のために長寿命化計画の策定支援や、地域防災研究センターの設立準備を支援する。</p>					
2 事業の内容					
<p>兵庫県朝来市・丹波市との地域連携事業費を支援し、地域協働・地域連携活動を推進した。</p> <p>また、インフラ長寿命化計画の策定及び、地域防災研究センターの令和3年度開設に向けた取り組みを推進した。</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	報酬	308,939	臨時職員報酬		
	職員手当等	19,890	臨時職員期末手当		
	需用費	59,875	消耗品費		
	使用料及び賃借料	61,296	複写機使用料		
	負担金補助金及び交付金	18,050,000	「知の拠点」推進事業交付金		
	決算額計	18,500,000	交付金充当額	9,250,000	
4 事業の成果	福知山公立大学の中長期の目標となる将来計画とあわせて、大学施設の点検等を行い人材育成の要となるキャンパス整備における長寿命化計画を策定した。				
5 課題	兵庫県北部地域を対象とした地域連携事業の更なる積極的な展開が必要である。				
6 R3年度以降の 予定	北近畿地域における産学官連携コンソーシアムの構築に向けた基盤づくりに取り組む。 また、令和3年度に開設した「地域防災研究センター」の研究を通じて安心安全な危機管理モデルの構築を目指す。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	福知山公立大学の社会人向け講座受講者数	人	1598/300	1253/400	607/500
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	地域と大学の連携取組数(包括協定締結数)	人	15/10	15/10	15/10
担当課による評価	A(非常に効果があった)				
評価をつけた理由	福知山公立大学の建物と設備に係る財政負担の軽減を図るために①5年間の中長期修繕計画として「インフラ長寿命化計画(個別施設計画)」の策定と併せて、令和4年度からの福知山公立大学の次期中期目標、中期計画の骨子となる「福知山公立大学将来計画」を策定した。				

NO.10

R2地方創生推進交付金 福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業

事業名	福知山観光地域づくりセンター運営事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	6,794千円				
1 事業の背景・目的					
北近畿の玄関口としての特性を活かし、住民主体で持続可能な観光コンテンツを作るを戦略テーマとして、地域資源を住民や事業者と磨き上げ、持続可能な観光地域づくりを進めながら、地域の課題解決や地域活性化を図る。					
2 事業の内容					
上六人部地域では、地元の酒蔵を協力し地域の米を使った、酒造り体験を通じて地域ファン獲得を行った。三岳地域においては、地元の特産品のブラッシュアップを図り販路開拓を行うとともに、かかしづくり体験の講座化やかかしレンタル事業を実施し、持続可能な地域づくりの仕組みを構築した。					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	委託料	6,600,000	センター事務局運営等業務委託		
	決算額計	6,600,000	交付金充当額	3,300,000	
4 事業の成果					
酒造り体験では、リアルとオンランと織り交ぜコロナ禍での取り組みを実施して新たな銘柄を参加者で作って関係人口創出につなげた。三岳地域では、特産品をオンランでの販路開拓やSNS発信を地域主体で取り組んだ。					
5 課題					
各地域において地域資源を活用した観光コンテンツや体験型コンテンツの造成は可能である。しかし利用者ニーズに合わせて継続的にカスタマイズすることが課題。また持続的に事業を維持するコンテンツを販売支援等などの中間組織が必要であり、組織の設立に向けた協力または独立して採算を追求する団体等への支援が必須という課題が見えた。					
6 R3年度以降の 予定					
上記課題を受け、令和2年度に市内事業者で構成するサードプレイスツーリズム協議会が設立された。令和3年度以降について協議会を支援する形で観光地域づくりを推進する。					
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	観光入込客数	人	927,086 /942,000	1116577/942,000	892414/942,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	事業着手地区数	回	3/ 3	3/3	2/2
担当課による評価					
C(効果があった)					
評価をつけた理由					
コロナ禍での取り組みでも、リアルイベントをオンラインを組み合わせるなど地域と事業者の繋がりが出来たこと。地域のまとまりによる地域主体での取り組みにより仕組みが構築できたことなど本事業は効果があったと評価。					

NO.11

R2地方創生推進交付金 福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業

事業名	福知山市産業支援事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	30,361千円				
1 事業の背景・目的					
<p>経営上の課題を抱える中小企業等のあらゆる問題の解決と売上向上に向けたビジネスの挑戦を事業者の目線に立って一緒になってチャレンジするための拠点として、福知山産業支援センターを運営し、これを核とした地域の活性化に向け全力で取り組む。</p>					
2 事業の内容					
<p>相談業務を中心とした支援を行う福知山産業支援センター「ドッコイセ!biz」においてあらゆる業種の事業所の相談に対応する。福知山産業支援センター「ドッコイセ!biz」の運営業務については、一般社団法人福知山産業支援機構へ業務委託をする。</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位:円)	費目	金額	概要		
	委託料	24,004,605	産業支援センター運営業務委託		
	使用料及び賃借料	116,376	産業支援センター設備賃借料		
	決算額計	24,120,981	交付金充当額	12,060,381	
4 事業の成果	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により予定していた講演会やセミナーについては開催を中止したが、年間を通じて983件の相談に対応し事業者の売上アップや販路開拓につながるアイデア出しを行った。</p>				
5 課題	<p>相談者のうち92%がリピート利用者であり、新規相談者の獲得が課題となっている。</p>				
6 R3年度以降の 予定	<p>相談業務の中で出たアイデアをスピーディーに事業化する。 また、女性相談者の割合を伸ばし、福知山発の女性起業家の創出に取り組む。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	販路拡大や売上up等につな がった件数	件	19/30	155/30	157/30
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	相談件数/月	件	79/30	82/30	82/30
担当課による評価	B(相当程度効果があった)				
評価をつけた理由	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、飲食店を中心に売上アップにつながった成果は減少したものの、補助金獲得やネット販売サイトの構築などコロナ禍ならではの相談案件への対応、事業者支援に寄与することができている。</p>				

R2地方創生推進交付金 福知山市・丹波市・朝来市 定住生活圏域創生人財・産業育成事業

事業名	福知山PR戦略総合推進事業
担当課	市長公室 秘書広報課
予算額	40,154千円

1 事業の背景・目的

福知山市外に対しては福知山市のイメージ向上と関係人口の拡大、市内に対してはシビックプライド（まちへの愛着や誇り）醸成を目的に、パブリックリレーションズの手法を活用して、各ターゲットにあったPR活動を展開し、市のメッセージを届ける。当市とその活動に対する共感や具体的な行動を起こしてもらおう人々を増やし、持続可能な地域経営を目指す。

2 事業の内容

「知られざる明智光秀プロジェクト」明智光秀主人公の2020年大河ドラマ放送を契機に、中期的（H30～R2）に展開するPR活動

①福知山城公式サイト開設、コンテンツ作成 ②オンラインで「麒麟ロス後夜祭～光秀ありがとう～」開催 ③明智光秀イメージ調査 ④オンライン発表イベント ⑤市民PR講座 ⑥動画バンク開設 ⑦職員PR研修

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	委託料	28,226,649	PR戦略総合推進業務委託	
	決算額計	28,226,649	交付金充当額	14,113,324

4 事業の成果	<p>福知山ゆかりの武将・明智光秀が主人公の大河ドラマ放送を契機に、平成30年度～令和2年度までを重点PR活動期間と位置づけ、明智光秀をテーマに戦略的なPR活動を行った。コロナ禍でも柔軟に計画を変更し、オンラインを活用したPR活動を行い多くの資産を残した。例として、事業①は月平均7千UU、1.7万PV。その他、今後活用可能な多くのコンテンツを残した。②はリアルタイムで延べ約5千人が視聴。③は大手ニュースメディアのトップニュースに選出されるなど社会的関心を集めた。</p> <p>PR事業全体の活動を通して、「光秀ゆかりのまち福知山」の認知度が増加。また、まちのイメージで「福知山線脱線事故」が減少、「明智光秀」が増加した。</p> <p>また記事掲載件数では、他市の事例は、大河ドラマ開始年度が最多、終了年度は大幅に減少する傾向がある。一方、福知山市では、PR事業に関する記事掲載件数では、大河ドラマ開始年度(R1)→終了年度(R2)で前年比約130%を記録。制約の多い状況でも大河イヤーの集大成にふさわしい活動実績を残した。</p>
---------	---

5 課題	課題としては、PRは社会情勢に強く影響されるため、社会とのコミュニケーションを図り、今立てている計画も臨機応変に変更して、最も効果的なPR活動を選択し実施していくことが求められる。
------	--

6 R3年度以降の 予定	<p>令和2年度は、大河ドラマ「麒麟がくる」の放送を契機として、コロナ禍の中でもPR活動を行い「明智光秀が築いた城下町」ブランドを築くことができた。</p> <p>令和3年度はこれまでの活動を通じて表れた福知山市に通底する「まちづくりの挑戦心=光秀マインド」をコンセプトにしたPR活動に発展させるとともに、光秀に加え大江山の鬼伝説といった市域の多様な資源を活用し、シビックプライドの醸成と関係人口・交流人口の拡大を図っていく。また、シテプロモーションを通じて得られたパブリックリレーションズ（PR）のノウハウを全庁的に広げ、本市の魅力を伝えるとともに、各施策の理解を促進し効果を最大化する。</p>
-----------------	---

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	「明智光秀のまち福知山」都市圏の認知度（アンケート調査）	%		40.4	34.7/43
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	プレスリリース配信	件	10/10	22/10	42/10

担当課による評価	A(非常に効果があった)
----------	--------------

評価をつけた理由	コロナを機に戦術をほぼ一新。オンライン。アウトカムにあらわれている。
----------	------------------------------------

NO.13

R2地方創生推進交付金 今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業

事業名	森の京都DMO事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	9,118千円				
1 事業の背景・目的					
豊かな森が存在する亀岡市から福知山市の京都府中部地域において、生命と文化を育んできた「森」を多様な角度から捉え、森の文化の発信などを通して観光地域づくりを推進し地域活性化を図るため森の京都DMOを組織して観光誘客による地域活性化を図る。					
2 事業の内容					
一般社団法人森の京都地域振興社（森の京都DMO）に対する自治体負担金					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金補助金及び交付金	8,876,000	森の京都DMO事業分担金		
	決算額計	8,876,000	交付金充当額	3,200,000	
4 事業の成果	京都府中部全体で観光による地域づくり、地域活性化のための施策を展開 R2主要事業：着地型旅行商品造成、インバウンド誘客、食の観光の推進、観光プロモーション、観光データ収集・分析等				
5 課題	福知山市への経済効果及び費用対効果が明確な数値として表しにくい。 2つのDMOへの費用負担、事務調整などメリット、デメリットを整理していく。				
6 R3年度以降の 予定	引き続き森の京都DMOと連携し広域観光やプロモーションで誘客を図っていく。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	観光入込客数	人	927,086 /942,000	1116577/942,000	892414/942,000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	観光プロモーション等	回	3/8	3/8	2/8
担当課による評価	D(効果がなかった)				
評価をつけた理由	新型コロナウイルス感染の拡大により国内旅行やインバウンド需要が激減し、本市への観光誘客が図れなかったため、効果が無かったと評価した。				

R2地方創生推進交付金 大河ドラマ「麒麟がくる」を契機にした「城下町」レガシープロジェクト事業

事業名	福知山光秀プロジェクト推進事業
担当課	市長公室 秘書広報課
予算額	144,137千円

1 事業の背景・目的

2020年の大河ドラマ「麒麟がくる」の放送を契機に、明智光秀ゆかりの地 福知山市の歴史・文化を全国に発信するとともに、観光誘客による産業・商業の活性化を図り、市民が主人公となったまちづくりを進める。

2 事業の内容

平成30年9月に設立された「福知山光秀プロジェクト推進協議会」が実施する下記事業への負担金

- ・ 福知山光秀ミュージアム整備運営
- ・ 広報・PR
- ・ 団体連携
- ・ 土産物販売所設置運営 等

福知山光秀ミュージアムは令和3年2月7日で閉館、目標100,000人に対しコロナ禍でありながら91,400人の実績。福知山光秀プロジェクト推進協議会は令和3年3月で解散。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	負担金補助金及び交付金	122,491,366	福知山光秀プロジェクト推進協議会への負担金	
	決算額計	122,491,366	交付金充当額	50,366,000

4 事業の成果	<p>2020年1月の大河ドラマ「麒麟がくる」の放送開始後は福知山光秀ミュージアムを開館し、団体客・個人客の誘客に取り組み、目標入館者数100,000人に向けて想定を上回るペースで推移していたが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年3月11日～5月末まで臨時休館、令和3年1月14日からは京都府緊急事態宣言発令と厳しい状況下ではあったが、最終入館者数91,400人、目標に対しての達成割合91.4%と他のドラマ関連施設と比べ善戦。また、オンライン講演会の実施などコロナ禍に対応した情報発信にも努めた。</p> <p>大河ドラマ紀行では、福知山城、福知山踊り、最終回には御霊神社で幕を閉じ、光秀が今も息づくまちとして紹介されるなど明智光秀ゆかりの地としての情報発信の成果が現れたものと評価している。</p>
---------	---

5 課題	大河イヤーについては、新型コロナの影響から実際の誘客には結びつかなかったことが課題として残る。コロナが落ち着いたら訪れてみたいと思っている層のつなぎ止めや実際の来福を促す仕掛けが必要となる。
------	---

6 R3年度以降の 予定	本市の明智光秀ゆかりのまちとしてのイメージは高まっており、この好機を活かし令和3年度以降も明智光秀が築いた城下町ブランドを強化するとともに、市内事業者・団体等が本協議会活動通じて培った土産物開発や観光客おもてなし等のノウハウをウィズコロナ社会におけるアフター大河の観光振興、地域活性化につながる取り組みに展開できるよう支援に努める。
-----------------	--

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	観光入込客数	人	927,086/980,000	1116577/1000000	892414/1000000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	実行委員会開催回数	回	8	10/12	3/10

担当課による評価	A(非常に効果があった)
----------	--------------

評価をつけた理由	コロナ禍において、当初計画していた来館者数には届かなかったものの、一定の誘客を実現できた。また、明智光秀ゆかりの地であることを全国に発信することができた。
----------	---

R2地方創生推進交付金 大河ドラマ「麒麟がくる」を契機にした「城下町」レガシープロジェクト事業

事業名	大河ドラマ「麒麟がくる」推進事業
担当課	市長公室 秘書広報課
予算額	1,091千円

1 事業の背景・目的

2020年の大河ドラマが戦国武将明智光秀を主人公にした「麒麟がくる」に決定したことを受け、明智光秀・細川ガラシャ・幽斎・忠興にゆかりの地域で連携して当地域の文化や情報を発信し地域の活性化を図る。

2 事業の内容

大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会への負担金

【大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会】構成市町：福知山市（事務局）、舞鶴市、綾部市、宮津市、亀岡市、長岡京市、京丹後市、大山崎町、丹波市、丹波篠山市、若狭町、京都府

事業概要：平成23年度から明智光秀などにゆかりのある12の府市町（H29から事務局福知山市）が連携し、地域の自然や歴史文化を全国に発信し、観光振興と地域経済の活性化に寄与することを目的にNHKへの要望活動や署名、先進地視察、首都圏等各地でのプロモーション活動を実施。

平成30年5月に明智光秀を主人公とする2020年大河ドラマ「麒麟がくる」が決定。以降は、大河ドラマの放送を契機として、各種イベント出展・広告出稿による圏域情報の発信、ファムトリップや商談会等を通じた旅行業者・メディア向けアプローチ、NHK京都放送局との連携によるスマホdeスタンプラリーの実施、HP・SNSによる情報発信など、広域連携の強みを活かした観光振興と地域活性化に向けた活動を実施。大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会は令和3年3月で解散。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	負担金補助金及び交付金	745,359	推進協議会への分担金	
	決算額計	745,359	交付金充当額	372,679

4 事業の成果
明智光秀を主人公とする2020年大河ドラマ「麒麟がくる」が決定して以降は、大河ドラマの放送を契機として、各種イベント出展・広告出稿による圏域情報の発信、ファムトリップや商談会等を通じた旅行業者・メディア向けアプローチ、NHK京都放送局との連携事業、HP・SNSによる情報発信など、広域連携の強みを活かした観光振興と地域活性化に向けた活動を実施。令和2年度は新型コロナウイルスの影響を受けたもののSNS等を活用した情報発信等により本市の歴史文化を発信した。協議会設立から10年間に渡る取り組みを通じて所期の目的を達成することができたと評価する。大河ドラマ「麒麟がくる」推進協議会は令和3年3月に解散。

5 課題
大河ドラマの効果を一過性にする事なく、4名ゆかりの地として引き続き広域で連携した取り組みを実践に移せるかが課題となる。

6 R3年度以降の
予定
今後についても、明智光秀・細川ガラシャ・幽斎・忠興、また、大河ドラマゆかりの地域として、これまで培ってきたノウハウやネットワークを活かし、プロモーション活動やイベント、情報発信などで相互連携を継続することが重要である。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	スタンプラリー福知山 光秀ゆかりコース参加 者数	人	0	595/1740	1756/5260
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	大河ドラマPRキャン ペーン数(市内)	回	9/10	7/10	10/10

担当課による評価 A(非常に効果があった)

評価をつけた理由 大河ドラマ誘致による地域活性化という目的に向かって京都・兵庫・福井の12もの府市町の行政・商工観光団体等が団結した枠組みは有意義だった。

R2地方創生推進交付金 大河ドラマ「麒麟がくる」を契機にした「城下町」レガシープロジェクト

事業名	福知山PR戦略総合推進事業（2）
担当課	市長公室 秘書広報課
予算額	40,154千円

1 事業の背景・目的

福知山市外に対しては福知山市のイメージ向上と関係人口の拡大、市内に対してはシビックプライド（まちへの愛着や誇り）醸成を目的に、パブリックリレーションズ的手法を活用して、各ターゲットにあったPR活動を展開し、市のメッセージを届ける。当市とその活動に対する共感や具体的な行動を起こしてもらう人々を増やし、持続可能な地域経営を目指す。

2 事業の内容

「知られざる明智光秀プロジェクト」明智光秀主人公の2020年大河ドラマ放送を契機に、中期的（H30～R2）に展開するPR活動
 ①コンセプトムービー「明智光秀マインド」…福知山市民や光秀特別大使クリス・ペプラーさんなど出演
 ②福知山城の紹介動画 ③「明智光秀×福知山IDEAVIEWER」制作…福知山公立大学と協働し、光秀×福知山に関して集めたアイデアをデジタル装置で展示

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	委託料	8,999,100	PR戦略総合推進業務委託	
	決算額計	8,999,100	交付金充当額	4,499,550

4 事業の成果
 福知山ゆかりの武将・明智光秀が主人公の大河ドラマ放送を契機に、平成30年度～令和2年度までを重点PR活動期間と位置づけ、明智光秀をテーマに戦略的なPR活動を行った。コロナ禍でも柔軟に計画を変更し、オンラインを活用したPR活動を行い多くの資産を残した。事業①は11万回視聴。②は福知山城公式サイトなどで活用。③は一般市民の投稿アイデアを一般市民が閲覧・「いいね」という双方向性をもたらし、R2新設の福知山公立大学 情報学部の広報にもつながった。PR事業全体の活動を通して、「光秀ゆかりのまち福知山」の認知度が増加。また、まちのイメージで「福知山線脱線事故」が減少、「明智光秀」が増加した。また記事掲載件数では、他市の事例は、大河ドラマ開始年度が最多、終了年度は大幅に減少する傾向がある。一方、福知山市では、PR事業に関する記事掲載件数では、大河ドラマ開始年度(R1)→終了年度(R2)で前年比約130%を記録。制約の多い状況でも大河イヤーの集大成にふさわしい活動実績を残した。

5 課題
 課題としては、PRは社会情勢に強く影響されるため、社会とのコミュニケーションを図り、今立てている計画も臨機応変に変更して、最も効果的なPR活動を選択し実施していくことが求められる。

6 R3年度以降の
 予定
 令和2年度は、大河ドラマ「麒麟がくる」の放送を契機として、コロナ禍の中でもPR活動を行い「明智光秀が築いた城下町」ブランドを築くことができた。令和3年度はこれまでの活動を通じて表れた福知山市に通底する「まちづくりの挑戦心＝光秀マインド」をコンセプトにしたPR活動に発展させるとともに、光秀に加え大江山の鬼伝説といった市域の多様な資源を活用し、シビックプライドの醸成と関係人口・交流人口の拡大を図っていく。また、シティプロモーションを通じて得られたパブリックリレーションズ(PR)のノウハウを全庁的に広げ、本市の魅力を伝えるとともに、各施策の理解を促進し効果を最大化する。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	「明智光秀のまち福知山」都市圏の認知度（アンケート調査）	%		40.4	34.7/43
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	プレスリリース配信	件	10/10	22/10	42/10

担当課による評価 A(非常に効果があった)

評価をつけた理由 コロナを機に戦術をほぼ一新。オンライン。アウトカムにあらわれている。

NO.17

R2地方創生推進交付金 大河ドラマ「麒麟がくる」を契機にした「城下町」レガシープロジェクト

事業名	やくの木と漆の館事業
担当課	地域振興部 夜久野支所
予算額	3,779千円

1 事業の背景・目的

夜久野地域は、古来日本でも有数の漆の産地であり、漆掻きは人々の暮らしを支えてきた生業であった。そんな夜久野の歴史を残し、伝えていくことを目的に「やくの木と漆の館」は設置され、丹波漆の伝統継承と漆産業の振興を目的に設立された「NPO法人丹波漆」と連携を図りながら、丹波漆を使った夜久野ならではの製品を作り、漆の絵付け体験、金継ぎ教室及び蒔絵教室を開催するなど、丹波漆の良さを伝える場や機会を提供する施設として運営している。

2 事業の内容

漆に関する資料展示、漆芸作家の作品を展示する企画展の開催、漆器の制作及び販売、漆塗り体験者への指導、金継ぎ教室及び蒔絵教室の開催など

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	報償費	142,500	蒔絵教室講師謝礼	
	備品購入費	224,235	漆乾燥装置等購入費	
	需用費等	1,743,518	やくの木と漆の館運営事務経費	
	原材料費	717,460	蒔絵教室等原材料費	
	決算額計	2,827,713	交付金充当額	1,399,089

4 事業の成果
丹波漆の伝承と、漆塗りや漆の絵付けなど様々な漆芸が学べる体験型施設として運営するとともに、漆器の制作販売や、漆芸作家作品等の展示、各種資料展示、体験教室などを通じて地域文化の振興を図った。

5 課題
道の駅「農匠の郷やくの」の運営が不安定となっていることで、関連した集客が得られなくなっている。休館となっている施設の早期の活用と道の駅の活性化に向け、他の施設と連携を図ることで、相乗効果による施設利用者増を目指す必要がある。

6 R3年度以降の
予定
引き続き丹波漆の伝承館として、新たな商品開発や夜久野産丹波漆を使用した漆器等により丹波漆の情報を発信し、入館者数、売上げの増加を目指す。また、道の駅「農匠の郷やくの」の特徴ある施設として他の施設や団体と協働し、夜久野エリア全体の集客増を図るとともに、販路開拓に努める。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	入館者数	人	1,272/1,500	1364/1500	1012/1500
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	蒔絵・金継ぎ教室開催	日	32/33	30/33	38/33

担当課による評価 C(効果があった)

評価をつけた理由
①入館者数1,012人(前年度1,364人)、②通常体験者数981人(前年度1,375人)、③売上額2,555千円(前年度1,871千円)
①②については、前年度より利用者が減少しているが、コロナ禍で人数制限等の影響によるものである。ダイレクトメールやHPを利用して積極的にPRしており、また、③については、そのような状況下に反して販売、漆塗りで実績を上げており評価できる。

R2地方創生推進交付金 大河ドラマ「麒麟がくる」を契機にした「城下町」レガシープロジェクト

事業名	和紙伝承館管理事業				
担当課	地域振興部 大江支所				
予算額	1,985千円				
1 事業の背景・目的					
<p>福知山市大江地域は、古くから地場産業として和紙づくりが行われ、府内の代表的な和紙生産地であった。伝統地場産業として、また、貴重な文化として育まれてきた「丹後手すき和紙」の歴史や生産技術等を展示公開し、あわせ手すき和紙製作体験の場を提供する施設として運営する。</p>					
2 事業の内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・丹後手すき和紙の歴史や生産技術等の展示公開を行う。 ・市域小中児童生徒を対象に地域文化の伝承として手すき和紙製作体験を行う。 ・地域資源として観光入込客の受け入れを行う。 					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	職員手当等	636,206	臨時職員賃金		
	需用費	201,160	和紙伝承館運営事務経費		
	委託料	94,380	手すき和紙体験業務委託料		
	決算額計	931,746	交付金充当額	465,000	
4 事業の成果	<p>伝統的な手すき和紙を広く伝えるため、和紙関連作品の企画展示会を年3回開催する。また、令和2年度は、地域文化伝承を担う手すき和紙製作体験について、コロナ感染症拡大防止のため一般の体験を休止し、地域文化伝承のため市域小中児童生徒に限り実施する。 施設開館日（土日・祝日）109日間 ・入館者数371名 ・手すき和紙製作体験者数46名</p>				
5 課題	<p>他施設との連携を図り相乗効果による施設利用者増を検討する必要がある。手すき和紙製作体験の代わりに密とまらない一人でも体験出来る手すき和紙を活用したうちわづくりの実施等ウイズコロナの工夫が必要である。</p>				
6 R3年度以降の 予定	<p>引き続き、丹後手すき和紙の生産技術等の展示公開、手すき和紙製作体験や手すき和紙を活用したうちわづくりの実施により和紙文化の伝承を図るとともに、地域資源の活用により観光入込客の増加を推進していく。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	施設利用者数	人	581/1,200	741/1,200	371/1,200
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	開館日数	日	122/122	126/131	109/116
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	<p>事業の目標値を1,200人としているが、コロナウイルスの影響により入館者数371人（R1年度741人）、体験者数46人（R1年度305人）と前年度より減少しており目標値には至らないが、市域内小中児童生徒の手すき和紙体験実施により和紙文化伝承の効果があったと評価する。</p>				

R2地方創生推進交付金 北部地域連携都市圏ものづくり産業都市創造プロジェクト

事業名	起業おうえん事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	5,118千円				
1 事業の背景・目的					
市内の事業所数が減少傾向にある中、市内で新たに事業を営む者に対し助成制度を実施することで、創業時の経費負担を軽減するとともに、創業時のノウハウ取得のためのセミナー等の開催により、創業しやすい環境を整え、起業及び雇用を促進することで産業の活性化を図る。本事業は国から認定を受けた福知山市創業支援計画に基づき実施する。					
2 事業の内容					
1 創業セミナー 専門家による創業セミナーを2回実施 2 起業家支援事業補助金（補助率：ソフト事業1/2 上限200千円、ハード事業1/4 上限500千円） 市内で新たに起業する者、起業して1年未満の者に対し、起業に係る経費の一部を補助 3 起業おうえん助成金 創業関連融資利用者に対し、6か月分の利子相当額を全額補給する。					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	役務費	155,699	新聞掲載料		
	委託料	330,000	創業セミナー業務委託費		
	負担金補助金及び交付金	1,393,455	起業支援補助金		
	決算額計	1,879,154	交付金充当額	939,577	
4 事業の成果	○起業家支援事業補助金・・・1,144,000円/2件 ○起業おうえん助成金（利子補給）・・・249,455円/4件 ○創業セミナー（入門編）参加者・・・13名 ○創業セミナー（実践編）参加者・・・23名（入門編重複者13名）				
5 課題	より効果的な地域創業支援を促進するため、従来から実施している市内金融機関等とのネットワーク会議にて創業支援に関する情報を今後も引き続き共有していく。またスタートアップ企業を生み出す「NEXTふくちやま産業創造事業」との連携を図ることで、雇用の創出に繋げていく。				
6 R3年度以降の 予定	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度創業セミナー（実践編）についてはオンラインでの開催となった。そのため、参加者同士の繋がりや、創業に対しての具体的なイメージがしにくく、令和元年度と比較して創業者数が減少した。令和3年度以降については、コロナ禍でも創業者を支援できるよう様々な開催方法を検討していく。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	市内での創業者数	人	23/32	32/32	23/32
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	セミナー参加者数	人	30/15	45/15	23/15
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	令和元年度と比較して創業者数が減少した。また、市内金融機関等とのネットワーク会議においても、新型コロナウイルス感染症の影響により実施回数が1回のみとなり、創業に関する情報共有があまり行えなかった。				

NO.20

R2地方創生推進交付金 北部地域連携都市圏ものづくり産業都市創造プロジェクト

事業名	販路開拓支援事業				
担当課	産業政策部 産業観光課				
予算額	1,050千円				
1 事業の背景・目的					
市内の中小企業者が自社の製品や技術・サービスの販路拡大のために市外で開催される展示会・見本市・商談会へ出展・参加する経費の一部を助成する。					
2 事業の内容					
関西圏内への出展は上限10万円、関西圏外へは15万円、海外へは20万円を補助する。物品販売を伴う展示会に出展する場合、1/4を補助する。申請上限は通算5回とする。					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	負担金補助金及び交付金	79,000	販路開拓支援補助金		
	決算額計	79,000	交付金充当額	39,000	
4 事業の成果	令和2年度の補助金利用件数は2件であり、いずれの事業者においても新規成約にはつながらなかった。				
5 課題	コロナ禍においても、事業者が積極的に自社製品・サービスを外部に発信できるような制度設計や周知が必要。				
6 R3年度以降の 予定	福知山産業支援センターとの連携により、さらなる制度周知を図る。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	本制度を利用し、新規成約に結びついた件数	件	9/67	4/67	0/67
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	補助金利用者数	件	9 / 23	3/23	2/23
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	利用件数や成約数は伸びなかったが、利用者への事後聞き取りにて「制度がなければ展示会へ行っていなかった」「背中を押していただいた」という言葉をいただくなど、コロナ禍で消極的になっている事業者の販路拡大を後押しできたという点では効果があったと評価する。				

NO.21

R2地方創生推進交付金 北部地域連携都市圏ものづくり産業都市創造プロジェクト

事業名	企業交流促進事業
担当課	産業政策部 産業観光課
予算額	540千円

1 事業の背景・目的

長田野工業団地立地企業と工業団地以外の企業の結びつき及び交流の促進、企業間の交流、情報交換、受発注の醸成等を目的として実施される福知山企業交流会の活動を支援し、市内企業同士の受発注の活発化等を図ることにより企業活動の活性化、地域の発展につなげる。

2 事業の内容

福知山企業交流会の活動に補助金を交付し、研修会や受発注懇談会等を通して企業間交流を図る。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	負担金補助金及び交付金	540,000	企業交流促進事業補助金	
	決算額計	540,000	交付金充当額	270,000

4 事業の成果

近年活動内容の大幅な見直しが行われていなかったが、令和2年度においては福知山公立大学から講師を招き、産官学連携をテーマに事例を交えた講演会を実施するなどの新たな取組を実施した。閉会後には大学と事業者及び事業者同士の活発な交流がみられ、両者の継続的な関係性の構築につながった。

5 課題

会員企業のニーズについて随時見直しを続け、企業交流会がどの程度受発注率の増加に寄与しているのか、効果検証について検討する必要がある。

6 R3年度以降の予定

他地域での企業交流事業等を情報収集し、社会・経済情勢に合わせた会のあり方を検討していく

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	受発注 (市内発注/長田野総発注)		%	24/25	21/25
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	受発注懇談会、視察等の参加者数	人	74/145	60/145	40/110

担当課による評価 C(効果があった)

評価をつけた理由

長田野企業の総発注高のうち市内企業への発注は19%となり、前年度の24%からやや減少した。

NO.22

R2地方創生推進交付金 北部地域連携都市圏ものづくり産業都市創造プロジェクト

事業名	稼げる農業応援事業				
担当課	産業政策部 農林業振興課				
予算額	5,881千円				
1 事業の背景・目的					
<p>自らが「稼ぐ」ことに取り組み、将来展望を切り開こうとする意欲ある農業者等を支援することで、農業競争力の強化を図る。</p>					
2 事業の内容					
<p>ふくちやまのエエもん発掘事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 「これぞ福知山」といえる郷土色豊かな農産品や加工品を「ふくちやまのエエもん」として認定し、商品のブラッシュアップ支援や、商談会等への出展支援を実施する。 					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	報償費	721,800	鑑定会等委員謝礼		
	委託料	2,764,000	販売促進アドバイス業務委託料		
	印刷製本費、需用費	62,118	チラシ印刷、消耗品等諸経費		
	決算額計	3,547,918	交付金充当額	1,773,959	
4 事業の成果	<p>新たに福知山ならではのといえる6品を「ふくちやまのエエもん」に新たに認定し、累計で17品目となった。 大丸京都店での地場産フェアに出展し、認定品のPRを実施した。</p>				
5 課題	<p>福知山ならではの背景などが十分に説明されておらず、同時に「ふくちやまのエエもん」の認定制度自体の知名度も高くないために、認定されても売り上げ増につながりにくい。</p>				
6 R3年度以降の 予定	<p>「ふくちやまのエエもん」の認定品の魅力をきちんと伝えるために新たにwebを作成し、一品ずつ丁寧に紹介するとともに、より多くの方に「食べてみたい」と思ってもらえるようエエもんを使用した食事会を開催する。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	農業所得が対前年度比5%UPした認定者	人	3	0/11	集計中/17
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	エエもん認定品	品	4	7/3	6/6
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	<p>以前認定されなかった商品が、福知山らしさを追求することで、魅力ある逸品となり、新規の認定に至った。これは、認定を目指す生産者の意欲向上にもつながっており、新たな商品開発や生産者の所得向上が期待される。</p>				

R2地方創生推進交付金 北部地域連携都市圏ものづくり産業都市創造プロジェクト

事業名	「知の拠点」推進事業 (3)				
担当課	市長公室 大学政策課				
予算額	391,755千円				
1 事業の背景・目的					
<p>福知山公立大学が学生、住民、企業等の多くの方に利用いただける魅力ある大学となるとともに、福知山公立大学を核とした北近畿地域の産学官連携コンソーシアムを構築し、協働連携事業等を推進するためのプラットフォームを構築する。</p>					
2 事業の内容					
<p>産学官連携を推進するためのコーディネータ等の専門人材の配置や、共同研究や人材育成のパイロットモデルの構築を支援。</p>					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	報酬	1,590,000	有識者報酬		
	旅費	99,882	有識者旅費		
	需用費	2,852	消耗品費		
	使用料及び賃借料	7,266	複写機使用料		
	負担金補助金及び交付金	9,500,000	「知の拠点」推進事業交付金		
	決算額計	11,200,000	交付金充当額	5,600,000	
4 事業の成果	<p>地域を担う人材の育成や産業の振興、地域課題への解決に繋げるために福知山公立大学が持つ情報技術等を活用したプロジェクトを実施し、地域の情報化教育の推進等に貢献した。</p>				
5 課題	<p>北近畿地域を対象とした地域連携事業の更なる積極的な展開が必要である。</p>				
6 R3年度以降の 予定	<p>産学官による共同研究の推進のために専門知識を有した研究支援のための人材を配置し、北近畿地域での産学官連携コンソーシアムの構築を目指す。</p>				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	福知山公立大学の社会人向け講座受講者数	人	1598/300	1253/400	607/500
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	地域と大学の連携取組数(包括協定締結数)	人	15/10	15/10	15/10
担当課による評価	A(非常に効果があった)				
評価をつけた理由	<p>福知山公立大学が持つICTやAI等の情報技術を活用し、小中学生を対象としたプログラミング教室や、中丹教育局と連携したプログラミング教材の開発、学内業務の勤務管理システム・決裁システムの開発など大学業務のデジタル化による効率化とコロナ禍への対応を行った。</p>				

NO.24

R2道整備推進交付金「北近畿の拠点“福知山”ネットワークを強化する道作り計画」					
事業名	地域間交流促進ネットワーク事業(市道)				
担当課	建設交通部 道路河川課				
予算額	7,000千円				
1 事業の背景・目的					
市道、林道の一体的な整備により、市内の道路網を整備し、交通の利便性、地域間交流の促進、交流ネットワークの強化を通じて、災害時における避難経路の確保、安全・安心な道路環境、観光入込客数の増加を図る。					
2 事業の内容					
広域的な道路網の整備とこれに接続する幹線道路の改良を行い危機対応の強化を図る。 (市道10路線、9,755m)					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	委託料	8,222,100	岡ノ木線測量設計業務		
	工事請負費	12,900,000	広小路勅使線道路舗装改良工事		
	工事請負費(繰越)	17,883,800	広小路勅使線歩道新設工事		
	決算額計	39,005,900	交付金充当額	10,561,050	
4 事業の成果	地域間を結ぶ幹線的な道路など優先度の高い路線を整備し、地域間の連携強化を行いネットワークの強化、災害時における避難経路の確保を行い安心・安全な道路環境を整えることができた。しかし、コロナ過によるイベントの中止等により、観光入込客数が減り、年度計画を達成できなかった。				
5 課題	用地買収を伴う事業や、他事業と連携を図り進める事業においては、相手方との交渉や調整に困難を伴い工程に遅れが生じる。				
6 R3年度以降の 予定	引き続き、他路線の整備を進めることで、一層の誘客効果を図る。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	工事完成路線	路線	0 / 8	2/8	0/8
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	事業実施路線	路線	2 / 2	4/4	3/1
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	令和2年度は、工事完成路線はなかったものの、事業実施路線は増加した。観光入込客数は達成できなかった。				

NO.25

R2道整備推進交付金「北近畿の拠点“福知山”ネットワークを強化する道作り計画」					
事業名	地域間交流促進ネットワーク事業（林道）				
担当課	産業政策部 農林業振興課				
予算額	37,994千円				
1 事業の背景・目的					
市道、林道の一体的な整備により、市内の道路網の整備をし、交通の利便性、地域間交流の促進、交流ネットワークの強化を通じて、災害時における避難経路の確保をし、安全・安心な道路環境、観光入込客数の増加を図る。					
2 事業の内容					
通常の林道機能に加え、大江山線を観光林道として、額田大油子線を国道9号線の迂回路として整備する。					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	工事請負費	30,078,400	林道額田大油子線法面改良工事、林道大江山線法面改良工事		
	工事請負費(繰越)	7,992,300	林道大江山線法面改良(その2)工事(繰越)		
	決算額計	38,070,700	交付金充当額	23,460,000	
4 事業の成果	地域間を結ぶ幹線的な市道整備と合わせ、林道法面改良を行うことで、迂回路や観光林道として安心・安全な道路環境を整えることができ、観光入込客数増加に寄与した。				
5 課題	引き続き不安定な法面の改良を進めるとともに、計画に従って整備を進める。森林施業環境を整え丹州材の出荷量の増加を図る。				
6 R3年度以降の 予定	関係機関との調整により、林道額田大油子線に関しては令和2年度で終了し、林道大江山線に関しては、令和4年度を最終年度に計画を継続する。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	丹州材の出荷量	m3	3300/8500	3430/9300	2125/10000
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	事業実施延長(大江山線)	m	0/49	27/18	62/51
担当課による評価	C(効果があった)				
評価をつけた理由	計画路線付近において事業者による、森林整備に伴う木材搬出が進められている。				

R2地方創生拠点整備交付金 北近畿『知』の拠点を活用した地域力推進計画

事業名	「知の拠点」推進事業（2）
担当課	市長公室 大学政策課
予算額	391,755千円

1 事業の背景・目的

福知山公立大学が学生、住民、企業等の多くの方に利用いただける魅力ある大学となるとともに、北近畿地域の産学官連携ネットワークを構築し、協働連携事業等を推進するためのプラットフォームを整備する。

また、「地域に根ざし、地域住民に見える大学づくり」を推進する一環として、旧市街地の空き店舗を改修して市民聴講を含む大学講義や市民講座等を実施するための地域連携拠点並びに京都工芸繊維大学との連携拠点の役割を担う「まちかどキャンパス」を整備する。

2 事業の内容

福知山公立大学が北近畿地域の住民、各種団体等との連携・協働の活動拠点として様々な機能を発揮するよう、メディアセンター等の施設改修及びICT環境を整備。

旧市街地の空き店舗を改修して、市民聴講を含む大学講義や市民講座等を実施するための「まちかどキャンパス」を整備する。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	決算額計	0	交付金充当額	0

4 事業の成果

両施設ともに学生のみならず、一般の利用者も増えてきており「地域に根ざし、地域住民に見える大学」としての役割を担っている。

5 課題

施設整備に関する専門知識を有した人材が不足している。

6 R3年度以降の
予定

施設利用の促進のための広報補強化や、各種関係機関との連携・自主企画等を検討していく。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	福知山公立大学の社会人向け講座受講者数	人	1598/300	1253/400	607/500
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	地域と大学の連携取組数（包括協定締結数）	人	15/10	15/10	15/10

担当課による評価 A(非常に効果があった)

評価をつけた理由

メディアセンターの施設改修を行ったことで、福知山公立大学が北近畿地域における様々な課題解決に向けたシンクタンク機能を発揮し、地域住民や企業等の「知の拠点」としての役割を果たす施設となった。
また、まちかどキャンパスを整備したことで、「地域に根ざし、地域住民に見える大学」としての役割を果たしている。

R2地方創生拠点整備交付金 「『知の拠点』整備構想」産学官連携拠点整備計画

事業名	「知の拠点」推進事業 (3)
担当課	市長公室 大学政策課
予算額	391,755千円

1 事業の背景・目的

地域を担う高度情報人材を育成するとともに、地域企業や行政機関との共同研究を通じて北近畿地域の産業界への情報技術の導入、社会実装をすすめ、地域の生産性を高めるプロジェクトを推進することで、若者の定着や地域が求める人材の育成、産業イノベーションの創出、更には様々な産業分野において先端情報技術の活用を通じた生産性の向上や雇用を生み出し、北近畿地域全体の活性化に繋げる。

2 事業の内容

福知山公立大学3号館を改修し、地域企業や行政機関との共同研究機能、情報人材育成に向けた地域住民、社会人、企業職員等を対象とする情報学に関するリカレント教育機能、京都工芸繊維大学との国立・公立の文理連携を含めた産学官連携機能を備える情報教育研究拠点施設として整備する。

3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要	
	決算額計	0	交付金充当額	0

4 事業の成果

整備した施設において、福知山公立大学が持つ情報技術等を活用したプロジェクトを実施し、地域の情報化教育の推進に貢献した。

5 課題

産学官連携を推進するための専門人材の確保

6 R3年度以降の
予定

福知山公立大学を核とした北近畿地域における産学官連携を推進するためにコーディネータ等の専門人材を配置する。また、福知山公立大学における地元との共同研究や人材育成のパイロットプロジェクトを実施する。

成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	福知山公立大学の社会人向け講座受講者数	人		1598/300	1253/400
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	地域と大学の連携取組数(包括協定締結数)	人		15/10	15/10

担当課による評価 A(非常に効果があった)

評価をつけた理由

情報学部施設の整備したことで、大学が持つICTやAI等の情報技術を活用し、小中学生を対象としたプログラミング教室をはじめとしたリカレント教育や、企業との共同研究、行政からの受託事業等を行った。

R2企業版ふるさと納税「働いてみたい福知山長田野工業団地PR事業 ～企業誘致、環境対策に向けて～」

事業名	長田野工業団地内緩衝緑地帯再整備等事業				
担当課	秘書広報課				
予算額	89,513千円				
1 事業の背景・目的					
<p>長田野工業団地土地利用増進計画に基づき、樹木伐採を計画的に進め、企業の操業環境を確保及び市民が工業団地内の散策を安心安全に行えることを目的とする。</p>					
2 事業の内容					
長田野工業団地緩衝緑地等の樹木伐採及び処分					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	工事請負費	3,865	市ノ谷公園園路改修工事		
	委託料	8,678	工業団地緩衝緑地等樹木伐採業務ほか		
	積立金	76,512	長田野工業団地公園緑地等事業基金積立金		
	決算額計	89,055	交付金充当額	0	
4 事業の成果	長田野工業団地土地利用増進計画により、長田野工業団地内企業と協議を行うことにより、良好な計画で進捗している。企業の操業環境の整備が順次実施できている。				
5 課題	緩衝緑地の目的を損なわず、なおかつ企業操業の環境を適宜改善していく。				
6 R3年度以降の 予定	緩衝緑地の目的を損なわず、なおかつ企業操業の環境を適宜改善していく。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	伐採延長	m	0	1,300	1,170
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	伐採件数	件	0	7	6
担当課による評価	A(非常に効果があった)				
評価をつけた理由	企業の操業環境を確保及び市民が工業団地内の散策を安心安全に行える環境整備ができた。				

R2企業版ふるさと納税「働いてみたい福知山長田野工業団地PR事業 ～企業誘致、環境対策に向けて～」

事業名	化学消防車両購入事業				
担当課	秘書広報課				
予算額	—				
1 事業の背景・目的					
長田野工業団地立地企業の危険物火災等に対応できる化学消防ポンプ自動車の導入により、防火・防災に対する安全対策を講じ、就労環境の改善を図る。					
2 事業の内容					
消防本部の消防車両を更新整備する。 ・化学消防ポンプ自動車1台を更新整備した。					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	決算額計	0	交付金充当額	0	
4 事業の成果	・化学消防ポンプ自動車1台を更新整備し、長田野工業団地立地企業等の防火・防災環境を整備することができた。				
5 課題	市民の生命・財産を守るため、消防活動の機動力となる消防車両の更新整備を行い、初年度登録から20年未満の車両割合を高める必要がある。				
6 R3年度以降の 予定	集中整備計画に基づき効率的な車両更新を行うとともに、国庫補助金などの財源確保を図る。更新により廃車した消防車両のインターネットオークションによる売却を継続し、財源確保に努める。				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
担当課による評価	A(非常に効果があった)				
評価をつけた理由	約40社が立地する長田野工場団地をはじめとする市内の危険物火災への対応基盤が整備できたため。 (事業は令和元年度に化学消防車両購入により完了しているため、令和2年度の事業費は0円です)				

R2企業版ふるさと納税「福知山市まち・ひと・しごと創生推進計画」

事業名	インフルエンザ予防接種事業				
担当課	秘書広報課				
予算額	143,542千円				
1 事業の背景・目的					
<p>インフルエンザワクチン接種をすることで、インフルエンザの発症、重症化を防止し、社会的な流行を防ぐ。 令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大とインフルエンザの流行が同時期に起こることを生じる市民の不安軽減や同時罹患による重症化を防ぐために対象者を拡充、集団免疫を獲得する。</p>					
2 事業の内容					
<ul style="list-style-type: none"> ・実施方法：委託医療機関でインフルエンザワクチンの予防接種をうける。 ・対象者：①満65歳以上の高齢者と60～64歳で心臓、じん臓、呼吸器、HIV感染による免疫機能障害の身体障害者手帳1級保持者 23,084人 ②満64歳以下で身体障害者手帳1級・2級及び療育手帳A保持者 770人 ③満64歳以下で基礎疾患をもつ人 5,138人 ④妊婦 600人 ⑤中学生以下の子ども 10,817人 ・自己負担金 無料（ただし、中学生以下の子どもは1,000円） ・実施期間：令和2年10月1日～令和2年1月30日 					
3 決算額及び 交付金充当額 (単位：円)	費目	金額	概要		
	報酬・職員手当	527	職員報酬・期末手当		
	需用費	537	消耗品費・印刷製本費		
	役務費	121	郵送料ほか		
	委託料	140,637	インフルエンザ予防接種		
	扶助費	292	償還払いほか		
	決算額計	142,114	交付金充当額	5,000,000	
4 事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・接種者数 ①高齢者：実16,832人（延16,835人 重複接種3人） ②障害のある人：587人 ③64歳以下で基礎疾患をもつ人：2,722人 ④妊婦：298人 ⑤中学生以下の子ども：実6,357人（延9,681人） ・令和2年度の接種率は、①高齢者：72.9% ②障害のある人：78.2% ③64歳以下で基礎疾患をもつ人：53.0% ④妊婦49.7% ⑤中学生以下の子ども58.8%である。例年対象である高齢者と障害のある人は、接種率が上昇した。新型コロナウイルス感染症とハイリスク者が無料であったことが影響していると考えられる。 ・高齢者インフルエンザ予防接種事業は法定上の事業であり、今後も継続していく。障害者についてもリスクが高く重症化しやすいため、インフルエンザの発症や重症化を防止し、社会的な流行を防ぐために実施する。現在、インフルエンザ起因による死亡者が急増していないので、一定の評価としたい。 				
5 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・法定上の業務であるため、今後も継続して出来る限り対象者への周知を図っていく。成果目標については、統計情報がタイムリーに収集できないため、項目として妥当かどうか判断が付きにくい。また、B類疾病の予防接種なので、接種率を出すべきかどうか判断しにくい。 ・障害のある人では、今後も継続して障害者福祉課に協力を得ていく。しかし、本市で手帳を発行した人しか把握できないため、本市に住民票はあるが他市で交付された人の正確な数を把握できず、個別案内ができていない。現在は、施設からの申請と本人や家族からの申請にて対応している。 				
6 R3年度以降の 予定	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度はハイリスク者を無料としたため、事前申請が不要であった。しかし、令和3年度以降は自己負担金を設定しているため事前申請が必要となる。無料手続きについては、マイナンバーや本人確認書類が必要になるため、窓口が混雑することが課題である。また、その後の事務処理も多い。接種者数は増加しているため、円滑な確認作業や申請書の工夫など、事務作業の効率化を目指す必要がある。 				
成果実績 (アウトカム) 実績/当初目標	指標	単位	H30	R1	R2
	インフルエンザ死亡者数	人	3/0	未確定/0	未確定/0
活動実績 (アウトプット) 実績/当初見込	指標	単位	H30	R1	R2
	接種率(高齢者)	%	56.3/100	58.2/100	72.9/100
担当課による評価	A(非常に効果があった)				
評価をつけた理由	インフルエンザの発症、重症化を防止し、社会的な流行を防ぐことができた。				